

2025(令和7)年度 日本陸上競技連盟 全国競技運営責任者会議 議事録

2026年2月11日(祝) 10:00~15:00

味の素ナショナルトレーニングセンターで対面およびオンラインによるハイブリッド会議

1. 事務連絡 (片岡(典)幹事)

- ①オンラインの参加者は「氏名」「所属陸協」を表記。質問時はカメラとマイクはオンにする。チャットは、事務連絡のみとする。
- ②短冊 (JT0研修会1/31含む) とS級昇格者の委嘱状および手帳は加盟団体宛、2月中に郵送する。

2. 2026年度 競技規則修改正提案 (片岡(裕)委員)

片岡(裕)委員より、競技規則修改正提案の説明がなされた。

加えて、2026年1月から競技用靴に関する規程が改定されたことから、その説明と国内での適用方法について説明がなされた。

[主な改正点]

(1) 新規種目

- 男女300mH
  - ・国内では2018年から導入済みであるが、2026年度から国際規格が追加される。
- 4×100m男女混合リレー
  - ・4×400m 混合リレーは既にあるが、4×100m 男女混合リレーが新たに追加された。加えて、両種目ともに走順は「男子→女子→男子→女子」となる。

(2) 主な修改正 (詳細は資料を参照)

- ・CR. 9  
補足：主催者からの派遣要請に基づき、日本陸連が派遣した JRWJ 若しくは WARWJ 資格者が当該競技会の任にあたる。主催団体に所属する JRWJ は陸連からの派遣なしで任務にあたることはできない。競技会に依りて、必ず派遣要請をお願いしたい。
- ・CR31. 14. 4：混成競技の1回目不正スタート後の2回目以降の記録の取扱いについて
- ・TR3. 3：性別カテゴリーは男性・女性の2つのみ。
  
- ・TR5. 2：競技用靴の靴底の厚さ
  - 2024年11月からトラック種目、フィールド種目は20mm
  - クロスカントリーについて、2026年4月1日以降制限なし
  - 競歩については40mm
  - 国内適用ではあるが、駅伝も道路競技と同じ40mmと制限を設けたい。  
(但し、適用・非適用は主催者判断)
- ・TR8. 7：上訴金引き上げの提案。現行は100USドル相当で、1万円としているが2万円に引き上げたい。
- ・TR9：競技の区分 (TR3. 3に紐付き、4つの区分に分類)
- ・TR17. 3 注釈：WAに確認したところ、一步の中で接地から離地の間にも白線に触れていれば違反とみなさないとしたことであった。世界陸上のWAレフェリーも同様の見解。判定にあたっては「流れ」を確認いただきたい。判定ビデオだけではなく、チーム提供ビデオ

も判定材料となる。また、監察員記録用紙についても「エビデンス」として競技者に提示するため、記載は簡潔に分かりやすくする必要がある。

- ・ TR17. 5. 2 [国内] グループスタートの代用縁石の位置の変更 (2023 年 3 月末までに)
- ・ TR20. 4. 4 300m競走のシードレーン (明確化)
- ・ TR22. 1、22. 3 国際規格の 300mH の追加
- ・ TR22. 6 ハードル競技の失格事由の明確化
- ・ TR24. 6 落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き
- ・ TR24. 10 [国際] リレーの交代要員数の変更
- ・ TR24. 11、24. 12 男女混合リレーの走順は「男子→女子→男子→女子」
- ・ TR25. 14 高さの競技で予選通過標準記録まで行わずに決勝進出者が決まった際の対応
- ・ TR28. 1 PV の連続試技の際の試技開始の合図のタイミング
- ・ TR29. 5 LJ、TJ の踏切位置判定ビデオ

### (3) 競技用靴に関する規程の修改正のポイント

WRk 競技会は靴規程を遵守しなければならない。WA は、事前のシューズチェックはしない(むしろするな)、疑義があれば競技後にチェックする方針。また、「シューズコントロールオフィサー(靴チェック専門)」を置くことも求めている。国内においても競技前の靴底の厚さ計測は不要とする。ただし、主催者判断で計測することを妨げるものではなく、適用範囲(どのレベルの大会で厳格運用するか)についても主催者判断とする。

国内の非 WRk 競技会も原則適用とするが、競技会レベルに応じて主催者が適用非適用を決める。

## 3. 広告展示物規則PT (田中委員)

田中委員より、広告規則の修正と追記について説明がなされた。

[主な修正点]

- ・ 医療用テープに関する規程の修正と追記

WA 規程(原文)和訳の誤りの修正と、[注釈]の追記。国内競技会での運用に変更はなし。

[事例]

- ・ 国スポの事例から広告規程の管理者を任命していただきたい。
- ・ [事前質問「SNS などへの多数の投稿により、不特定多数の閲覧があることから、全ての競技会で規程が適用されるべきではないか。規程は努力目標なのか。」に対する回答]  
規程適用の競技会(iii)は、主催者側が配信するもののみであり、個人の SNS などへの投稿などは主催者が管理するところではない。広告規程は競技会規則であり遵守されるべきものである。ご理解と共有をお願いしたい。

### <質疑応答>

Q. 広告展示物規程に違反した場合はどのような処分になるのか。また、国スポの措置を確認したい。

A①. 広告規程は競技規則のため、規則に基づきYC(イエローカード)の対象となる。国スポでは「注意」を行った。事前のマスクング対応は行うものの、マスクングの拒否や国スポのような事例など極端な場合や指導に従わない場合には、YCや失格もあり得る。(田中委員)

A②. まずは、注意を促す。そのうえで、注意に従わず悪質であればYCの提示、なお改善されない場合には失格とするなど、段階を経て対応するのが妥当ではないか。なお、YCを他の競技会に持ち越すことはできないが、競技者に対しては繰り返しである旨を指導の中で伝えていくこと

で改善を求めることはできる。(片岡(裕)委員)

Q. リレーでバトンを落とした場合の写真判定について確認したい。

A. 写真判定の際は、バトンを拾って戻り、正しい身体の向きで再度フィニッシュラインを通過した時点での判定となる。(片岡(裕)委員)

Q. 広告展示物規程に関し、国際大会の事例を確認したい。

A. 世界陸上においては、マーケティング担当が管理をしていた。WAの弁護士資格を持っている職員が広告コミッショナーとして担当しているため審判員が対応することはなかった。担当者から審判員にマスキングの対応依頼が飛ぶことはあった。(陸連事務局 浅田氏)

#### 4. 施設用器具委員会報告(高木委員長)

高木施設用器具委員長より、規則改正等について説明がなされた。

##### (1) 2026年施設用器具委員会関係の規則の改正

WA競技規則、施設マニュアルとの整合性と国内競技規則変更による整合を図る

[主な改正点]

- ① グループスタートのスタート位置の変更
- ② ブレイクラインの考え方の変更
- ③ 300mHのWA規格移行への対応
- ④ やり投助走路踏切付近の舗装材の対応
- ⑥ 室内陸上競技場のショートトラックへの移行による室内陸上競技場公認に関する細則の対応
- ⑦ ショートトラックへの移行による屋外種目別陸上競技場施設公認に関する細則の対応

※⑥及び⑦に関しては2026年度中に改正予定

##### (2) 競技会の派遣について

##### (3) 競技会での注意事項

##### (4) 世界陸上での対応

#### <質疑応答>

Q. TR14.1 [注意] によると曲走路と直走路の境界点すべてのポイントのトラック内側の延長線上にコーンを設置することとされているが、義務と捉えるべきか確認したい。

A. 必須で願います。(片岡(裕)委員)

#### 5. 公認審判員制度の改正について(青柳委員、寺尾幹事)

##### (1) 改正を検討する背景

日本陸連とWAの審判員制度が並列・一部重複している状況にあり、WRk競技会においてもWAレフェリーの配置が求められているなど、国際基準への対応が高まっており審判員制度へと集約する必要性が生じている。

##### (2) JTO/JRWJ制度について

##### (3) 今後のスケジュール

- ・2026年3月以降 陸連理事会に原案提出 意見聴取・検討
- ・2026年夏ごろ 具体的な作業(ルールブック・ハンドブック・諸規定の修正)
- ・2027年4月 新制度開始(予定)

#### (4) その他

- ・日本陸連の登録料は、級別差はない。
- ・C級審判員制度について、運用方法について今後の検討課題としたい。
- ・2027年からの制度改正に合わせて、審判手帳を更新する可能性がある。審判手帳の発注数や在庫管理について留意して欲しい。

### 6. 世界陸上のビデオ判定事例報告（片岡(裕)委員）

片岡(裕)委員より、世界陸上のビデオ判定事例について説明がなされた。

#### (1) ルールに基づく事例

- ・TR17. 1. 1 意図的な妨害ではない妨害。リレーのシーン。これを見て、意図的で無いと判断ができる。
- ・TR17. 1. 2 意図的な妨害。女子 1500m の場面。最初にキッカケを作った選手を失格の対象とした。
- ・TR17. 5. 2 女子 10000m のグループスタートで内側の選手が外側のレーンを走った場面。これは短い距離を走っていないので違反では無い。
- ・TR17. 2. 3 レーン侵害。400mH では高精度のカメラがあったから監察員がスタンドから見る事ができた。監察員をスタンドに配置するには、使用するビデオ機器等の性能を考慮する必要がある。
- ・TR24. 20 バトンパスで走り出す位置。テイクオーバーゾーンの中から走り出さねばならないが、線から出ていることが分かる。
- ・TR24. 21 4×400mR で第3・4走者は審判員の指示に従い、前走者が第2曲走路入口を通過した順に待機するが、世界陸上の場合にはトラック審判長が並べている。選手をきちんと誘導している。
- ・TR30. 1. 5 着地の動きの中で着地場所の外側に肩が触れている。踏切だけでなく、着地の判定も重要。
- ・TR32. 14 投てきの際の足がサークルやラインの縁に触れていないかとの場面。審判員がきちんと判定をしているのが分かる。

#### (2) 抗議を却下した事例

- ・男子 1500m 予選

1300m 付近で押合いや接触があり、2名の選手が転倒その後、立ち上がった後、二人で並んでジョグをしながらフィニッシュした。結果発表後、両チームから抗議あり。ビデオ審判長は誠実に力を尽くしていないという理由から抗議を却下。

#### (3) イエローカードの事例

- ・男子 100m 優勝者がフィニッシュ後にユニフォームを自ら切り割く（衣類規則違反）
- ・男子マラソン 給水所で他競技者の飲食取得（反スポーツマンシップ行為）
- ・女子マラソン 給水所で他競技者の飲食取得（反スポーツマンシップ行為）
- ・女子マラソン 給水所以外で飲食物受取（反スポーツマンシップ行為）  
(往路のコース上にあった給水ポイントで、復路通過時にコーチが給水してしまった)

### 7. 世界陸上のスタートについて（関委員）

関委員より、世界陸上のスタートの事例について説明がなされた。

#### (1) Case I

男子 100m 予選 6組でオートリコールが作動し、選手を呼び戻した。このとき、RT(リアクションタイム)は 0.099sec であったが、失格としなかった。RT が限界 (0.100sec) に近く、SIS

(=Start Information System) に加えスタートをスローで再生できる高性能なビデオを WA レフェリー2 名が繰り返し見られたこと、波形が 0.099sec まで一切立ち上がりをみせていなかったことから、グリーンカードとなった。

(2) Case II

男子 100m 準決勝 3 組で 3 レーンの競技者の局所的な動きがあり、それにつられた隣の 4 レーンの競技者が不正スタートをしてしまい、3 レーンにイエローカードが出された (TR16.5.3)。

(3) Case III

男子 800m 予選 5 組で 6 レーンの競技者が On your marks の合図の後、体を止めずに動いたままスタートしようとしていた。遅延行為があったとしてイエローカードが出された。

(4) Case IV

男子マラソンで一番内側にいた競技者が号砲の前にスタートしてしまった事例があった。現場のスタート審判長より、直ちに止めるよう指示があったため、選手を止めてスタートのやり直しをした。WA スターターより、マラソンや競歩種目では不正スタートがあってもピストルを撃ち戻す必要がないとの指導を受けた。

### <質疑応答>

- Q. 競技用靴に関する規程について、中高生の大会は主催者が WA 規則を適用するか決めるということであったが、適用しない場合にはどのようなシューズでも良いということになるのか。特に、シューズリストに載っていないものを履いている場合はどのように対応すればよいか確認したい。
- A. 規則を適用しない場合、競技会のレベルによりシューズリストに載っていないから NG とすることは非現実的。規則を適用しないにしても何らかの基準を設けるならば、例えば靴の厚みが 20mm 以下あるいは 40mm 以下ということが広く納得される判断材料となるので、これを基準とすることもできるのではないかと。(片岡(裕)委員)
- Q. 長さの競技で、踏切の判定に粘土板と VDM を同時に使用してもよいか確認したい。
- A. 粘土板と VDM は併用しない。(片岡(裕)委員)
- Q. 長さの競技で、踏切の判定に粘土板を使用している時には踏切線の先に足先が出ていても痕跡が付いていない場合は有効試技ということによいか確認したい。
- A. 現時点での WA の見解はその通りである。(片岡(裕)委員)
- Q. マラソンの不正スタートはリコールしなくても良いとのことであったが、不正スタートをした競技者に対して何らかのペナルティは与えられるのか確認したい。
- A. 世界陸上ではペナルティは与えられなかった。基本的にフィニッシュ後に審判長が判断すべきものである。注意や警告を与えることも考えられる。(関委員)
- Q. 公認審判員制度の変更に伴い、審判手帳や審判員証も変更となるのか。そうになると、金銭的な負担が発生すると考えられ、懸念がある。
- A. 現時点では詳細は未定である、負担が少なくなるよう検討をしていく。(鈴木委員長)

## 【分科会1】

〔競技会レンダー・記録PT〕

### ① 競技会公認申請

2026年度公認競技会申請について、鍋島委員より説明がなされた。

### ② 日本記録申請について（村上委員）

日本記録申請について、村上委員より説明がなされた。

〔ポイント〕

- ・WAの管理するナショナルレコード（日本記録）は、WRk大会でマークされた記録のみ。
- ・道路競技などでの通過記録が日本記録となる場合でも、あくまでそのコースが検定され、競技会として公認された場合のみに記録となる。

### ③ 公認記録申請について（岩脇委員）

公認記録申請について、岩脇委員より説明がなされた。

〔ポイント〕

- ・公認記録申請について課題
  - 昨年度末で陸マガ記録室との連携を終了し、陸連システムにデータ申請のみとなる。新フォーマットは現在準備中。
  - 予備日に関しては1次申請時に確定している場合は大会名の後に（予備日）と記載すれば申請上問題ない。
  - 陸マガのシステムについては非公認の記録も反映されているものがあるため、日本陸連のシステムに移行後は非公認と分かるように申請いただきたい。
- ・都道府県記録、中学記録、高校記録等について
  - 日本陸連での関与はしないため、各加盟団体に精査いただく。

### ④ 記録用紙改訂（資料参照）

監察員記録用紙を使用せず競技会を行っている競技会あると伺っているが、書面をもって報告しなければならないという規則に従い対応いただきたい。上訴申立書に関しては上訴の流れを記入する用紙と金額面でのやり取りの2枚構成に変更となった。金額面の用紙は経理処理上問題がある場合は変更していただいて構わない。

## <質疑応答>

- Q. 予備日を設定していない競技会で事情により日程が変更となった場合、事後申請は可能であるか確認したい。
- A. 天候不良や暑熱対策関連で開催日を移動した場合は事後申請が認められる。申請を失念してしまったなどは認められない例となる。（岩脇委員）
- Q. 公認記録申請について、今年度行っていたメールでの送付はできなくなるということか確認したい。
- A. 電子システムでの申請をお願いしたい。事情がある場合はPTまで連絡してほしい。（岩脇委員）
- Q. 2025年度は日本陸連のランキングで過去データが反映されることが無かったが、来年度は改善するのか。資格審査をするうえで支障があったため確認したい。

- A①. ランキングについては、陸連事務局が確認をしている状況。ランキングシステムの修正はもう少し時間がかかる見込みである。まだ確定ではないが3月にランキング一覧を公開予定である。(陸連事務局 石田氏)
- A②. 不具合を見つけた場合はシステムの問い合わせフォームから連絡いただくことで都度反映していきたい。過去の記録については旧体制との兼ね合いもあり反映が難しい可能性がある。(岩脇委員)

## 【分科会2】

### ① S 級審判昇格審査報告 (吉田委員)

吉田委員より、S級昇格審査結果について報告がなされた。

[ポイント]

- ・2026年4月1日昇格予定者審査結果
  - 申請159名中155名を昇格候補者とした。

### ② 審判ハンドブック PT (資料参照)

[ポイント]

- ・2027-2028ハンドブック作成方針
  - 審判員や読者に読みやすく誤解のない表現を心掛ける
  - 世界陸上を終えて国際化を取り入れていく

### ③ 審判員研修 PT (寺尾幹事)

寺尾幹事より、審判員研修プロジェクトの取組みについて説明がなされた。

[ポイント]

- ・「WA Bronze Referee」資格取得試験に向けた人材バンク登録
  - 登録期限：2026年2月28日(土)
- ・競技会運営の合理化に向けたアンケートの実施
  - 少子高齢化に対応した今後の競技会運営の在り方
  - 東京陸協の取組み
  - アンケート実施。2026年1月26日(月)締切。未回答の場合は回答をお願いしたい。
- ・WRk競技会のBronze Refereeの配置について
  - WA規則に準じて競技が行われていることを監督する競技運営監督者
  - 日本選手権、WAコンチネンタルツアー(GGP、静岡国際、木南記念、織田記念)、ラベルロードレース→審判長、主任はBronze Refereeを配置
  - ※各審判長にBronze Referee以上の者が配置できる場合には競技運営監督者の配置は不要
- ・NARの申請方法について

### ④ 2025 年度 JTO 活動報告 (杉本幹事)

杉本幹事より、JTO活動状況の主な事例について説明がなされた。

[ポイント]

- ・日本選手権400m決勝において1着フィニッシュの競技に黄旗の事例報告
  - 2名の審判長の連携
  - リザルトの差替えなど

- ・インターハイの円盤投げの予選における、電源ドラムのオーバーヒートの事例報告
  - ドラムケーブルはすべてコードを引き出し使用されたい。

## <質疑応答>

- Q. NARの取得の意義について確認したい。
- A. Bronze Refereeの受験資格要件としてNAR3年が示されているため、その準備として取得いただきたい。（青柳委員）
- Q. 日本選手権男子400mにおいて選手が結局救済されたが、その理由として「違反がなかった」のか、または「裁定の理由が適切でなかったから」なのか、どちらなのか確認したい。
- A. 問題となったのは「一步の部分」のみ。その一步を巡って「(ラインを)踏んだのではないか」という点が議論となった。ビデオの映像も不鮮明であり、かつ、他の場所も踏んでいるように見える箇所もあり、加えて監察記録用紙の書き直しがあるなど信憑性に欠けた点もあった。最終的に失格としないとなったのは「疑わしきは選手の利益に」という考えであった。確たるエビデンスがあって、始めて違反と判断できるものとする。（片岡(裕)委員）
- Q. Bronze Refereeの合格者及び現在の人数を伺いたい。また、ジェンダーバランスの関係に伴い、山形陸協は女性しか合格していないため、偏りなく推薦できるようお願いできないか確認したい。
- A. 合格者数は集計して後日伝える。また、ジェンダーバランスについては、日本陸連にてコントロールが難しいため理解いただきたい。（赤峰副委員長）
- Q. 写真判定、スターターのBronze試験の申請可能枠について確認したい。
- A. それぞれ、男女1名ずつ、合計4名となる。（羽田幹事）
- Q. CT(コンチネンタルツアー)は審判長も主任もBronze Refereeを配置しなければならないのか確認したい。
- A. CTは、移行期間が2025年までとなっており、すべての部署ではないが、判定を行う審判長と主任はBronze Refereeを配置していただきたい。よって、Bronze Refereeが不足している場合には、近隣から招致していただきたい。CT主管の加盟団体は限られた加盟団体となるため、個別に調整したい。（陸連事務局 浅田氏）

## 8. 分科会報告

- (1) 分科会1について、赤峰副委員長より報告がなされた。（詳細は上記分科会のとおり。）
- ・公認競技会の申請について方法・時期について
  - ・道路競技についての途中記録の記載
  - ・マスターズについて
  - ・2026年度よりデータ申請のみ
  - ・ランキングシステムについては調整中
  - ・記録用紙の確認について
- (2) 分科会2について、佐藤幹事より報告がなされた。（詳細は上記分科会のとおり。）
- ・S級審判の審査について報告
  - ・2027年度-2028年度のハンドブック作成について

- ・競技会の合理化にむけての対応
- ・2025年度JT0報告について

## 9. 競技会報告（報告書参照）

- ① 第 109 回 日本陸上競技選手権大会 東京
- ② 第 109 回 日本陸上競技選手権大会・混成競技  
第 41 回 U20 日本陸上競技選手権大会・混成競技 岐阜
- ③ 第 78 回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会 広島
- ④ 第 52 回 全日本中学校陸上競技選手権大会 沖縄
- ⑤ 第 41 回 U20 日本陸上競技選手権大会 静岡
- ⑥ 第 79 回 国民スポーツ大会 滋賀
- ⑦ 第 19 回 U18／第 56 回 U16 陸上競技大会 三重

## 10. 2026 年 アジア競技大会について 伊藤テクニカルパレションマネージャー

伊藤テクニカルパレションマネージャーより、2026 年 アジア競技大会の準備状況について説明がなされた。

昨年の世界陸上の大成功を受けて、「盛り上がった陸上熱を2026年は愛知・名古屋に」との流れのなか着々と準備を進めている。会場は名古屋市の瑞穂公園陸上競技場（通称：パロマ瑞穂スタジアム）であり、3月までに工事を終えることとなっている。本競技場は、9レーンのトラックで外水壕の仕様となっており、スタンド席は2層構造で観客動員人数は約3万人である。検定に合格すると、日本陸連公認の第一種、WAのクラスⅡの競技場となる。

### (1) 大会スローガンおよびエンブレム、マスコットについて

スローガンは、「アジアでひとつに」との趣旨。大会を通して、アジアの国々・民族が一つになって取り組むことができるようにと込められている。

大会エンブレムとマスコットについて、ホノホン（アジア大会のマスコット）は選手の熱い心を示す炎としゃちほこ、ウズミン（アジアパラ大会）は物づくりを支える水としゃちほこが、それぞれモチーフとなっている。

### (2) 大会概要、競技スケジュールについて

第 20 回の開催で、国内では広島大会以来 36 年ぶりの開催となる。実施種目は 50 種目を予定しており、ロード種目については、道路使用の関係等があるためすでに決定した日程で行う。予定では、トラック競技について、ハーフマラソン競歩翌日の 9 月 24 日から始められたらと考えている。また、マラソン競技は男女のスタート時間を別々にしており、開始時刻も暑熱対策を考慮し計画している。

### (3) 会場の立地状況について

メイン競技場と練習会場について、美浜町→メイン会場（名古屋市）は約 1 時間、知多町→メイン会場は 20～30 分ほどかかる距離にある。

### (4) NT0 選考基準について

陸上競技では NAR として定義されているが、陸上競技以外にも統一し NT0 としている。審判員は愛知県内を中心に選考をしており、内々で 150 名確定しているが、現状は不足している。

### (5) アジア競技大会競技役員選考について

東海地区内で世界陸上を経験した審判員、JT0、Bronze Referee らとタッグを組んで進めていきたい。

### (6) テストイベントについて

トラックで実施していた愛知競歩競技会を、実際の競歩コースを利用して実施する予定。また、名古屋ウィメンズマラソンの一部でもテストイベントとして実施する。さらに、ジャパンパラ陸上競技大会および第 110 回日本選手権をメイン会場でのテストイベントとして参加する方向で進める。

## 11. 陸連事務局からの事務連絡

日本陸連 事務局肥田埜氏より陸上競技の安全・安心について説明がなされた。

- (1) 迷惑撮影対策に引き続きご協力をお願いしたい。各都道府県の大会では、迷惑撮影防止のポスター掲出、大型スクリーンやアナウンスでの周知をお願いしたい。
- (2) リレーや駅伝のユニフォームのルール解釈について、例えばリレーの走者ごとにユニフォームの形状やメーカーが異なっても、同じチームとして判別できれば良い。
- (3) 助力について、ロードレースでレースの続行が不可能なときに審判員が声をかけたり競技者の身体の一部に触れたりするのは助力ではないことについて、改めて認識いただきたい。
- (4) 日本陸連HPの「陸上安全ナビ」サイトの紹介。迷惑撮影対策のほかにドーピング、栄養、暑熱対策の情報が掲載されている。
- (5) 土日祝日の競技会でドーピング検査を想定していなかった競技会（大学の記録会等）で日本記録が樹立された場合、24時間以内にドーピング検査をおこなわなければならないので急遽対応が必要となるケースがある。2026年より土日祝日対応の電話番号を開設し対応していく。「陸上安全ナビ」サイトにも掲載した。なお、緊急時以外はメールで連絡されたい。
- (6) 世界陸上大会報告書を取りまとめて公開した。配布の資料から確認されたい。是非とも国内の大会に活かしていただけると願っている。

## 12. 事務連絡

- ①本会議の報告書は2月18日(水)に配信予定である。
- ②Zoomの録画データは本日中に事前配信フォルダに格納して共有予定である。

閉会